



伊賀市立壬生野小学校
2024年8月29日
発行責任者 藪中 俊典

全国学力学習状況調査の「児童質問紙」から

毎年4月に、全国の小6と中3の児童生徒を対象に実施される「全国学力学習状況調査」の令和6年度の結果が、7月29日に公表されました。小6に対しては、国語と算数の学習の定着を測る「学力調査」と、学習や生活の状態を確認する「児童質問紙」が実施されました。

今回は、「児童質問紙」の結果から見える本校の子どもたちの学習状況について掲載します。

1 生活習慣について

「朝食を食べている」「同じ時刻に寝たり起きたりしている」児童は、ほぼ100%でした。このことから、家庭でしっかり養育をいただいていることがわかります。

2 普段のゲーム機等の使用や、SNSや動画の視聴について

昨年度は、本校の子どもたちの4人に一人が4時間以上

SNSや動画の視聴をしていたことが大きな課題として明らかになりました。

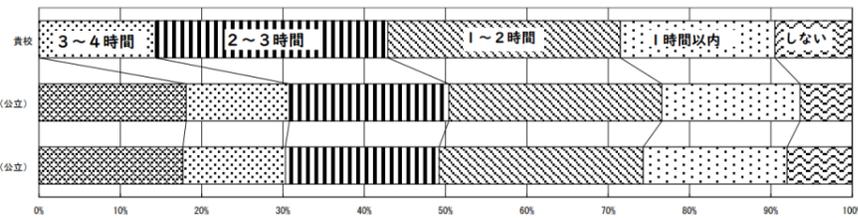
そこで、本年度は、「2時間まで」を合言葉に、取り組む取組をすすめています。

右のいずれの結果にも、「4時間以上」という子どもはいませんでした。ただ、平日でも、「2時間以上」使用や視聴している子どもたちがまだまだいます。

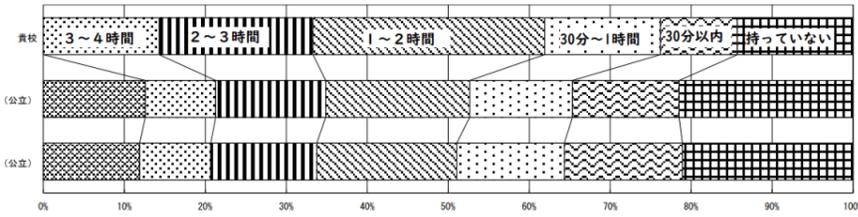
また、約束については、「二極化」の傾向が見られました。家の人と約束をしている子どもたちの多くは、何とかそれを守ろうと

していることが読み取れます。しかし、一方では、「約束を守っていない」という子ども以上に、家の人とそうした「約束」すらしていない子どもが多いという、本校の特徴が明らかとなりました。本校の子どもたちは、まだまだ、「自分で考え、判断する」ことには弱さは見られますが、「言われたことは守ろうとする」という強みは持っています。今一度、各家庭で、お子さんと「約束」を確認し、それが守れるよう、励ましの声かけをお願いします。

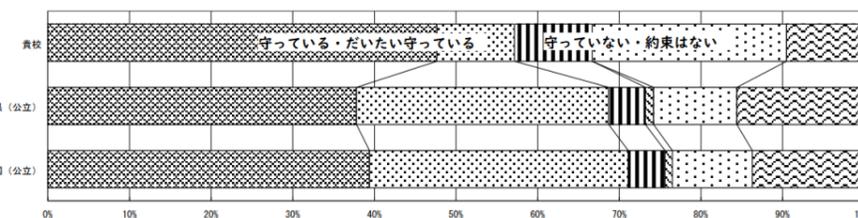
《平日のゲーム機やタブレット等の使用時間》



《平日のSNSや動画の視聴時間》



《使い方についての約束について》

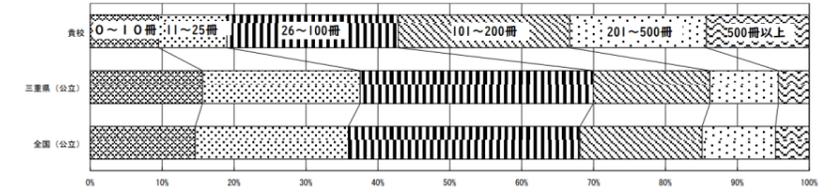


3 読書習慣の定着のための環境について

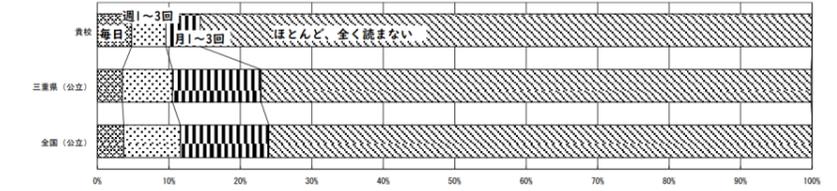
読書習慣の定着のためには、そのための環境を整えてあげることが必要です。そうした面では、本校の場合、ご家庭に多くの本があることは強みです。こうした強みをどのように活用するか、ご家庭での工夫をお願いします。

また、新聞の購読に関しては、「ほとんど、全く読まない」という割合が非常に高かったです。6年生であっても、新聞を読むことはなかなか難しいかもしれません。さらに言えば、最近では、新聞を購読されていないご家庭も増えてきています。そのため、学校では、小学生向けの新聞を購入し、子どもたちが新聞を読む機会を増やすようにしています。新聞を読むことで、社会の出来事に対する関心を高めていきたいと考えています。

《家にどのくらいの本があるか。》



《新聞をどのくらい読んでいるか。》



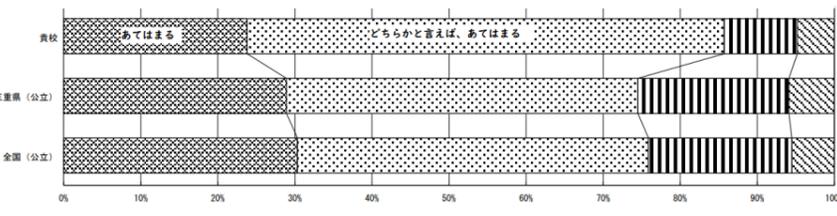
4 自分で考え、工夫しようとする態度について

集団で学んだり、生活をしたりしていく上では、自分とは異なる考えや思いを受け止め、そうした考えを活かして自らの考えを深めたり、友だちの思いを自分事として受け止めたりできるようになっていくことが必要です。

そうした点では、「自分と違う意見について考えるのが楽しいと思う」という子どもたちが多くという結果には、子どもたちの成長を感じます。

ただ、一方では、「わからないことや詳しく知りたいことがあったときには、自分で学び方を考え、工夫している」という回答が、三重県や全国に比べて低いところに本校の子どもたちの弱さがあると考えます。こうした弱さの要因としては、自信のなさや、友だちとの人間関係も影響しているとは思いますが、それ以上に、「ことばで考える(思考する)弱さ」「書かれていることや考えを読み解く力(読解力)の弱さ」があると考えています。人は、ことばを使って物事を考えます。今回の結果にも、本校の子どもたちの「国語力」の弱さが表れていました。今後も、「読み解く力の育成」「語彙を増やすこと」に重点をおいた学習を積み上げていきたいと考えています。

《自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか》



《わからないことや詳しく知りたいことがあったときには自分で学び方を考え、工夫することができる。》

